

# 日本体育大学大学院

## 令和8年度入学者選抜【出題の意図・解答又は解答例等】

研究科・課程	保健医療学研究科・博士課程
コース	救急災害医療学専攻
実施期	Ⅱ期試験
試験科目	筆記試験（専門科目）

### 【出題の意図】

博士課程の専門科目試験としてふさわしい水準を保ちつつ、受験者の理解力・実務経験・研究志向を多面的に評価することを目的として作成した。

この設問は、救急・災害医療においてエビデンスに基づく実践 (EBM) の重要性と限界を理解し、適切に運用するための視点を持っているかどうかを問うものである。EBM は医療の根幹を支える概念であるが、緊急性や情報不足が常態化する救急・災害現場においては、経験や直観、状況判断とのバランスが不可欠ともいえる。

博士課程では、こうした困難な現場に EBM の考え方をいかに応用・実装していくか、「再構築された EBM」や「現場対応型エビデンス」への発展的視点が求められる。教育、AI、意思決定支援などへの応用可能性も含め、理論と実践を架橋する思考力を評価することを意図した。

### 【解答例】

EBM (Evidence-Based Medicine) は、臨床判断における科学的根拠を重視する医療手法であるが、救急・災害医療においてはその適用に限界も存在する。特に、緊急性が高く情報が不十分な状況下では、従来の EBM の枠組みが通用しにくい。

たとえば、災害発生直後の現場では、診療ガイドラインを確認する余裕はなく、過去の経験と直感に基づく判断が主となる。このような状況においては、EBM の三本柱のうち「臨床現場の状況」と「患者の価値観」が重視されるべきであり、形式的な RCT (無作為化比較試験) のみに依存するのではなく、症例報告や専門家の意見も含めた「総合的証拠」の活用が必要である。

また、EBM の教育が理論先行であることも課題である。大学や大学院では、プロトコルや臨床推論に EBM を組み込む教育が必要であり、シナリオベースのシミュレーション訓練が有効である。現場に近い形での疑似判断を積み重ねることで、EBM を「使える知識」として定着させることができる。

将来的には、リアルタイムでの意思決定支援 AI や、現場対応マニュアルの EBM 的再構築が求められる。私は博士課程で、災害時の臨床判断支援における EBM の有用性と限界を明らかにし、現場で活用できるエビデンス提供のあり方を研究したいと考えている。(793 字)